

# ドレスデン報告

## = エルベ川、世紀の大洪水 =

木下 (土谷) 朋子

エルベ川はチェコに端を發し、ドイツ国内を通り北海に注ぐ国際河川です。河口には大都市ハンブルグがあります。ドレスデンは、このエルベ川が大きく蛇行する川岸の町です。川に面しているのに堤防らしい堤防はありません。さすがヨーロッパの河川は違うなあ、ゆったり流れているなあ、と思っていたのですが、緩やかに流れる河川の増水の恐ろしさを身をもって体験することになりました。



図-1 普段のエルベ川



図-2 高水位のエルベ川(まだ最高水位ではありません)

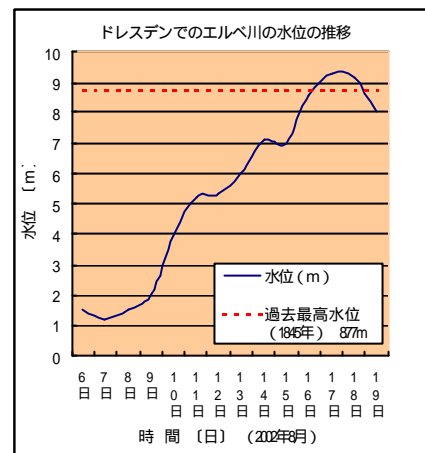
ドレスデンでの最高水位は9m40cm (8月17日土曜日朝8時)でした。こちらの川は勾配が緩やかなので、いったん増水するとなかなか引いてくれません。ここドレスデンは結局2回浸水してしまいました。

1回目は8月13日の火曜日で、エルベ川の支流が急激に増水し、鉄砲水のようになってエルベ川に合流するした際におこりました。この時点で旧市街にある観光名所(ゼンパーオペラ、ツピィンガー宮殿、ドレスデン中央駅などなど)が浸かってしまいました。支流の水がエルベに掃けてしまった後、今度は徐々にエルベ本流の水位が上流(チェコ)の水に押されて上がってきました。これが2回目の浸水をもたらしました。本当にゆっくりゆっくりと水位があがり、最高水位を記録したのは17日土曜日の朝8時、1回目の浸水のあと、3日半も水位が上がりがつづけたのです。

1回目の浸水の被害は支流の氾濫によるものだったので比較的狭い範囲でした。ドイツ各地からの消防、警察、軍隊、技術救助隊?(日本語に訳すとこうなる)など、各種の緊急車が集まり、

地下や路地にたまった水をポンプでくみ上げてくれました。それで終わりかと思っていたらまだまだ今度はエルベ川本流の水位があがるとのこと。しかもどの程度上がるのか上流(チェコ)のこれからの天気による、とのことで市内はずい緊張感がはりつめました。当時は雨がまだ降り止んだり降り続けていたのです。

表-1 ドレスデンでのエルベ川の水位の推移  
Saechsische Zeitung 20.08.2002 記事をもとに作成



これからの増水に備えて、ドレスデン市内のありとあらゆる病院からドイツ各地の病院への患者さんたちの移動が始まりました。1回目の浸水と進行中の増水のため、鉄道はもちろん市内の道路も所々使えない状況でしたので、緊急車、ヘリコプター、軍用機のリレーでした。私の家の近所に大きな大学病院があるため、1日中緊急車とヘリコプターが出入りして、それはものものしい雰囲気でした。

それと平行して土嚢で堤防をつくる作業が始まりました。記録至上最大の洪水になる、との見通しから、プロだけではなく市民総出の土嚢リレーでした。ドレスデンの旧市街を2回目の浸水から守ろうと本当に老若男女による土嚢リレーです。1回目の浸水の後、最高水位を記録した17日の朝8時までの3日半の間、夜を徹しての作業でした。



図-3 市民総出の土嚢リレー



図-4 近所にも来てくれました

16日の晩遅く、近所のエルベ川岸にも土嚢堰が出来ました。軍隊の人々に混じて普段は怖くて近寄れないようなスキンヘッドの若者や大きなビール腹の男性、若い女性などが、あっという間に作ってくれました。70cm程の高さの堰です。たったの70cmですが、どんなに心強かったことが。本当に安心して眠れるようになりました。



図-5 エルベ岸の土嚢堤防(水は際まできました)

こちらの人々は体格がよく、女性も男性におとらず、力持ちだなあと日頃から感じていたのですが、今回の土嚢リレーで改めて「からだの作りが違う!」と痛感させられました。女性が入ってもペースダウンすることなく、作業が進みます。みんなが働いているのを見ると、私もなにか出来ることはないかと思うのですが、非力でなにしろ外国人。言葉もあまり通じず、結局のところ緊急時に足手まといにならないようにするのが精一杯、邪魔をしないのが一番という状況でした。本当に残念です。

そんな中を緊急車は、犠牲者、移動の必要のある患者、砂、土嚢袋、土嚢、土嚢つみの作業の人...いろいろを積んでまちを駆けぬけていきます。ベルリンやハイデルベルグをはじめ、見たこともないようなナンバープレートの緊急車を見ては「ありがたいことや」と感謝、感謝です。



図-6 コットブスからの救急隊(待機中)

いつまで水位が上がりがつづけるのか?と戦々恐々の3日半がすぎ、ようやく17日の午後から少しずつ水位が下がりはじめました。最も水位が高かった17日はドレスデン市内の橋はすべて通行止めだったのですが、次の日から一部通行が開始されました。水が引いたところから掃除が始まっています。浸かってしまった家はこれからが大変です。まずは泥、泥水のかい出し、それから掃除です。緊急非難所に寝泊まりしての作業です。ちょうど夏休みシーズンだったのでどこかへ長期出かけていた人々も多く、大切なものを避難させることができないまま浸かってしまったお店や家は大変な損害を被っているようです。



図-7 一応、水位は下がりはじめました



図-8 隣の家、浸かってしまいました



図-9 近所の橋(Blauen Wunder/閉鎖)とドイツ料理店(浸水)

復旧活動は始まっていますが、まだ水位が通常水位から7mの高水位であるため、地下室にたまった水がなかなか掃けません。日中は30を越える暑さが戻ってきました。衛生的な問題が出てくる可能性があるので注意するように、とアナウンスが入っています。またエルベ川には油が浮いているところもあるようです。その他どんなものが溶け込んでいるか全く見当がつかません。街が

正常に戻るまで長期戦になりそうです。

それでも緊張事態は峠を越えました。旧市街の名所から泥水をくみ上げるポンプ車の陰で疲れ切った人々がうとうとしているのを見ると、お疲れ様です、やら、ありがとうございます、やら、水はまだ引いていないけどとりあえず助かったんだなあ...といろいろな気持ちになります。

ひと段落ついたところでこの洪水で感じたことを列挙します。

#### 《交通のようす》

市内の橋が一時渡れなくなりしました。また、中心街が浸かってしまい、交通は麻痺してもおかしくない状況だったと思うのですが、公共交通機関であるトラムとバスは路線をあちこち工夫しながら走りつづけていました。図-10 信号機、水没増水の最中も、もちろん走れる道に限られますが、とにかく運行しつづけてくれました。1台のバスには運転手と職員がもう一人、さらに主要なバス停(トラムも同じ)にはトランシーバーを持った職員が待機していて、臨時運行している行き先を告げ、客さばきをしています。交通局総出といった状況です。本当に頭が下がります。街中はまだ信号がついていないので、あちこちで警察による交通整理が行われています。8車線+トラム・バス専用道路がある大きな交差点では、複数の警察官と交通局の職員が出ていました。小さい交差点は「あ・うん」の呼吸で自主的通行です。(これが結構怖い!)車は渋滞気味です。



図-10 信号機、水没



図-11 自転車大活躍、老若男女みんな乗ります!

#### 《停電》

一部の地域で停電しています。私もしばらく停電を覚悟していたのですが、いまのところ大丈夫です。1日だけテレビが写らなくなりました。現在復活しています。テレビがないとドイツ語のラジオ放送ではほとんど状況がつかめず不安な思いをしました。お陰様でドイツ語がんばらなくちゃと新たな動機となりました。

#### 《水供給》

水に浸かってしまった地域は断水しています。我が家は幸い浸からなかったのですが、水道水の水質の保証ができない、とのお触れがでてミネラルウォーターを買い置きしています。給水車が動しているところもあります。数日間断水していて復旧の目処のたたない地域に住む友人が、家にシャワーを浴びに来ています。

#### 《物資について》

日常物資について、被害に遭った地域では「水、食べ物、服」を無償で配っています。ドイツはもともと店が少ないところでスーパーのように生活用品を買える店は近所では2ヶ所しかありません。その両方共が土日とも店を空けています。こちらでは閉店法という法律で許可なく土曜の午後4時以降と日曜日に営業をすることは禁じられているので緊急事態対応なのでしょう。また、近隣の被害を受けなかった町で、ドレスデン向けのパンを特別に焼く等して、大量に物資を運んでくれています。今のところ品数に不足はないようです。物価も上がっていません。ただし、これから畑の被害状況によっては野菜などの値段が上がるかもしれません。

スーパーでは我先に水を買いたい人も水を買いたい人もなく、皆がみんなの分がなくなってしまうまいようにお行儀よく数本ずつペットボトルの水を買っていきます。なんて大人なのだろう!と感心しています。



図-12 犬は、いつもより広くなった川の水辺で大はしゃぎ!

今のところ報告できる事項はこれぐらいです。今日は20日。早く日常に戻ろうと皆はりきっています。さあ、これから一刻も早く通常生活にもどらなければなりません。不思議なくらい良い天気です。空を見上げると、抜けるような青い空でした。今日は暑くなりそうです。



図-13 技術救助隊(THW)に囲まれて、復旧中のゼンパーオペラ